

道路

- 昭和
- 52. 10 新新バイパス海老名インターから競馬場インターまで2車線開通
 - 53. 4 市道大久保・瀬道橋が認定。大阿賀川に建設へ一歩前進
 - 56. 12 新新バイパスから東港インターまで2車線開通
 - 58. 7 新浦原水開通
 - 60. 2 阿賀川大橋の着工
 - 61. 10 新新バイパス海老名競馬場インター開通
- 平成
- 1. 9 新新バイパスが全線開通

高速交通時代に突入

急激な車の増加によって車社会が到来。生活の中で「車」「道路」は、主要な位置を占めています。

県都新潟市に隣接する当市は、生活圏も広がり、道路網も整備されてきました。昭和四十五年度に、全長二百五十七キロメートルの市道は舗装率一・七パーセント



▲混雑する新新バイパス

でした。それが平成元年度では、全長三百六十七キロメートル、舗装率八五・四パーセントとなりました。舗装率は、県下でも高い数字を示しています。

国道七号線新新バイパスが、昭和四十六年度に事業に着手してから十八年を明け、平成元年九月全線開通しました。まだ、一部二車線となっていますが、新潟市や新

発田市への幹線道路として整備され、両市いずれにも、市の中心から二十分程度で行けるようになりました。旧国道七号線は、昭和四十六年度に一日一万六千九百台の車が走る過密状態となっていました。新新バイパスの開通によりそれが少し緩和されました。



▲建設が進む大阿賀橋

しかし、新潟市へ通う朝夕の交通渋滞はまだまだひどく、新潟市へ向かう人たちは、阿賀野川に架かるもう一つの橋、大阿賀橋の早期建設を望んでいました。昭和六十年から建設が進められている大阿賀橋の計画は、橋脚が十一基、橋の長さが約八百八十八メートルで二車線となっています。現在は橋脚が八基完成。今年度中に全部の橋脚が完成し、開通は平成七年の予定となっています。

新新バイパスと市街地を結ぶ市道葛塚競馬場線の改良も進められ、着工してから九年かけて、昭和六十年に幅員十六メートルの道路が完成しました。また、日本海沿岸東北自動車道も具体化してきました。今後高速交通時代に対応した市内の道路整備が望まれています。

学校

- 昭和
- 47. 4 長場小、岡新田小の統合校豊栄南小開校
 - 48. 6 豊栄南小新校舎完成
 - 51. 4 葛塚東小が開校
 - 54. 4 下土地亀小と早通小の統合校早通南小開校
 - 56. 3 豊栄高校定時制課程が開校
 - 58. 4 葛塚小と上土地亀小の統合校、葛塚小開校
 - 59. 4 旧葛塚小体育館全焼
 - 62. 3 早通中が開校
 - 63. 2 新発田農業高校木崎分校閉校
 - 1. 10 木崎中校舎完成
- 平成

進む学校の統廃合

市制施行直後の昭和四十六年の調査では、市内十二の小学校児童数は三千二百三十五人となっています。学校別では、百人以下の学校が、岡新田小学校と下土地亀小学校の二校で、過疎過密の現象があらわれてきました。また、中学校は四校で、生徒数は、千八百五十人となっていました。高校の進学率が七一・八パーセントと低く、県平均の七七・一パーセント

に及ばない状態となっていました。これらの調査の結果から、教育委員会では小中学校の規模の適正化のため小規模校の統

廃合と大規模校の分離を図るなどについて検討してまいりました。最初に、長場小学校と岡新田小学校の統合がまとまり、豊栄南小学校が昭和四十七年四月開校、新校舎は昭和四十八年七月完成しました。

次に具体化されてきたのが、葛塚小学校の分離計画です。それは、市内最大の小学校であると同時に、今後市街地の人口増から小学校がもう一校必要になることや、校舎が古く建て替え時期になっていたことが理由です。昭和五十一年四月葛塚東小学校を新たに建設し、通学区域の変更が行われました。更に、児童数の減少が進み上土地亀小学校と葛塚小学校が統合し、新校舎を建設して昭和五十八年四月新葛塚小学校が開校しました。下土地亀小学校と早通小学校の統合計画も進められてまいりました。この二校は対象的で、下土地亀小



▲昭和51年4月に建設された葛塚東小学校

学校は農村地帯の人口減から児童数が減少し、早通小学校は早通団地の人口増からプレハブ校舎で授業を行っていました。このような状態の過疎校と過密校が統廃合することは珍しいことでした。昭和五十四年四月、両校の統合校早通南小学校が開校しました。

また、早通地区の人口急増は新たな中学校の建設も要求してまいりました。昭和五十九年四月、市内で五番目の中学校、早通中学校が開校しました。現在、過密状態となった葛塚中学校の一部を分離し、長浦中学校と統廃合する計画が進められ、新校舎を建築中です。

思い出のひと言

大阿賀橋は長年の夢



後藤昌平さん (大迎・65歳)

大阿賀橋の建設は、私たちの長年の夢でした。今は亡くなった宮尾幸一郎さんたちが発起人となり、建設運動が始まったんです。これまで何度も県や建設省に陳情に行きました。みんな早く造ってほしいので、用地買収もほとんど一年で終わりました。

全国へ通じる新新バイパス



宮澤邦子さん (横土居・27歳)

私は、新新バイパスパーキングエリア内の売店に勤めています。ここは、県外からのお客さんが多く、よく豊栄や新潟のことを聞かれます。北海道から来た人が「おいしかったらまた送ってほしい」と言って、米を買っていったこともあります。

思い出のひと言

学校がなくなりさみしい



原淳一さん (岡新田・31歳)

岡新田小学校の閉校は、私が中学生の時でした。自分の卒業した学校がないのは、何かさみしいものですね。グラウンドが狭く、野球のボールが道をはさんだ駒林川によく落ちたものです。グラウンドには大きなイチヂウの木があり、そのまわりで遊んだ思い出があります。

最後に

豊栄市の二十年を振り返ってまいりました。二十年の歴史の中からその一部分を断片的にしか取り上げることが出来なくて、不十分だと思いますが、これまでのまわりの探る参考になればと思います。

そして、市制施行二十周年を契機に、これからの豊栄をどうつくっていくのか、みんなで考えていければと思います。



昭和47年閉校になった長場小学校

規模校の統